

「表現運動の指導の在り方」 講師 筑波大学 名誉教授 村田芳子 氏

実技研修の流れ

- 1 体ほぐし
- 2 2人組でリズムにのって踊ろう
- 3 手たたき交流ダンス
- 4 リズムのくずしから表現へ

実技研修の実際

「1 体ほぐし」と「2 2人組でリズムにのって踊ろう」

- ① 2人組で自己紹介
- ② 両手をつないでじゃれる動き
- ③ だんだんとしなやかな動き
- ④ 相手と対話しながら動く ※点を意識 心と体のバランスを取りながら
- ⑤ 力を抜いた動き
- ⑥ 「アゲハ蝶」で1曲踊りきる。
- ⑦ 自由なダンス

「3 手たたき交流ダンス」

- ① 手たたき交流 ※キーワードは「弾み」と「交流(アイコンタクト)」
- ② 座ったままでリズムに合わせた動き

「4 リズムのくずしから表現へ」

- ① スローモーション対決
- ② 先生の動きに合わせて
- ③ 新聞紙を使って
※遊ぶ → 2人組 → 先生のリード → 破るから「誕生」へ → 片付け
※「思い切り散らかすこと」を教えよう。そして、思い切り片付けよう。

語録

- ・表現運動が嫌いと言った子がいる。しかし、その状況は正しい状況ではない。
- ・表現運動を学習する上で、「1人ずつが努力すると全体が変わる」という意識が大切。
- ・2人組など、複数人数で活動する時には、相手から「この人と組むことができラッキー」と思われるよう努力すること。
- ・本質の分かるシンプルな指導を目指す。
- ・形のある踊りは授業の最後に持ってくる。
- ・形のある踊りは1曲分を15分以上かけないで伝える。
- ・小さい子は音楽をかけると自然に踊る。5歳になる頃に段々と型にはまってくる。低学年のうちにどんどん経験を積ませること。「させないのは罪」というぐらいの意識で。
- ・自由なダンスは思い浮かんだ動きに委ねる。
- ・体は面白い素材である。
- ・「へそ」を意識して。
- ・「ひねりを入れる」「まわる」のような動きは教えないと、子どもたちからは、なかなか出てこない。
- ・集合した時は技術を伝える重要な場である。